



校長 藤山 昌生



玄関前のアジサイが見事に咲き誇り、毎朝見ているだけで気持ち
が癒されます。夏の暑い日が続いていますが、業間休みや昼休みに
は運動場で思いっきり遊んでいる子どもたちの姿が見られ、元気な声
が響いています。1学期の終業式(7月20日)まで、すでに1か月を
切りました。子どもたちそれぞれが目標をしっかりと達成できるよう取り
組んでほしいと願っています。1学期は参観日や学級懇談会を実施で
きませんでした。短い時間とはなりますが、個人懇談会で子どもたちの

様子をお伝えする機会を大切にしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

さて、宝塚小学校では6月21日から25日に「初夏の読書週間」を実施しました。私
も、できれば本にまつわる本を読んでみようと思い、「本との出逢いは人との出逢いと
同じ」「年間100冊以上も本を読む」と帯に書いてあり、以前から気になっていた、
芦田愛菜著『まなの本棚』(小学館,2019)を読みました。今まさに子どもたちが手に
取って読んでほしい絵本や本も、様々なテーマに沿って数多く紹介されています。
「気になったらすぐに開く図鑑」というテーマでは、何かに興味を持つと
もっと詳しく知りたくなると図鑑を手に取り、熱心に読んだよう
です。図鑑ですから、入り口は興味であっても、どんどん詳細な知識の海
にはまってしまうのでしょうか。すぐ手に取れるところに図鑑や辞書があると、
自分の興味のあることについては、読書という感覚はなく自然に没頭でき
ると思います。

芦田さんは本の中で読書の魅力について、「ページに並んだ活字から自分の想像で物語
の世界を作り上げていく楽しさ」「自分以外の誰かの考え方や人生を知る『疑似体験』」と書
いています。子どもたちには、本を読むことで、その世界観を頭の中で構成できる想像力や
読解力、言葉の意味を知り活用する力など、大切な力をつけてほしいと思います。

是非この機会に、子どもたちと一緒に家族みんなで読書をする日といったような、「メ
ディアコントロールデー」を設定してみたいはいかがでしょうか。日常、当たり前になっ
ているテレビやDVDの視聴、ゲーム、タブレットやスマートフォンから離れて、
活字の世界に入り込みませんか。そして、その話題を家族で共有
してみると、新たな発見があるかもしれませんね。まずはできるところから、無理を
せずはじめてみてはどうでしょうか。

